

平成30年度 授業改善推進プラン 江東区立第三砂町中学校 校長 森 富士生 (平成31年2月21日提出)		
各教科	各種学力調査結果や学習状況から分析した課題	課題改善を目指した具体的な学力向上策
国語	<p>① 都の調査では、A・Bの合計が71.7%（都73.1%）と劣る。知識・理解の項目で67.3%（都71.0%）と4.4%近くの差があることが原因である。</p> <p>② 国の調査Aの正答率は72.1%であり、5.4%の差を開けられている。 →以上のことから、国語の学習には意欲的に取り組み、かつ発展的な活動や問題には取り組むものの、基礎的な学力において課題が見られる。</p>	<p>基礎的な学力の向上を目指し、以下の3点を重点目標とする。</p> <p>① 授業の構成の工夫を行い、主体的・対話的で深い学びを意識した授業改革を行うことにより、学びに向かう力を向上させる。</p> <p>② 漢字テストの継続的な実施及び比喻など修辞法を実際に用いる学習を行い、基礎学力を伸ばす。</p> <p>③ ①②を土台として数多くの課題に挑戦させ、学力の定着を図る。</p>
社会	<p>① 都の調査では、A・Bの合計が56.8%（都：60.9%）と4.1%劣っている。A（教科の内容）に関しては都が63.3%に対し、学年では59.7%と合計の値と近く3.6%の差となっているが、B（読み解く力に関する内容）については都が52.1%であるのに対し、学年では46.2%と約6%と非常に大きな差がついている。</p> <p>② 観点別の調査結果においては、『関心・意欲・態度』、『思考・判断・表現』においては、都の平均より約1%低い水準でとどまっている。しかし、『技能』（都：58.3%、学年：52.9%、都との差-5.4%）、『知識・理解』（都：62.2%、学年：58.1%、都との差-4.1%）に関しては、大きな差がついている。</p>	<p>① 教科書や地図帳、資料集を活用し、資料を読み取る機会を多くつくり、統計データを活用した授業の展開を図る。また、複数の資料を同時に扱う機会も増やしていく。資料に関しては、従来の紙ベースのものに加え、ICTを活用し、より視覚的に捉えられるようにしたい。</p> <p>② 家庭学習や朝学習、小テストや授業の導入を通じて、繰り返し学習をする。小テスト（授業内で行うもの）に関しては、合格点を設定し、そこに到達するまで再テストを行い、知識・理解分野における力の向上につなげていく。授業に関連事項を取り上げて、復習する機会を多くつくる。習得した知識を活用し、社会的事象について自分の考えをまとめ、発表する機会を多くつくる。</p>
数学	<p>都の調査では、A・Bの合計が45.2%（都が53.6%）と劣っている。特にA（教科の内容）は47.0%（都が56.8%）で大きく下回っている。観点別の調査結果においては、A（教科の内容）「思考・判断・表現」、「技能」が都よりも大幅（10%以上）に劣っている。また、B（読み解く力）の「解決する力」も都より8%劣っている。以上の結果から、「思考・判断・表現」や「解決する力」等の力を身に付けるためにも、「知識」、「技能」を着実に定着させることが課題である。</p>	<p>「知識」「技能」の向上を目指し、以下の取り組みを実施する。</p> <p>① 「知識」「技能」の力を高めるために、問題解決の授業を展開する。その際、教員は発問を工夫し、生徒同士で課題を解決できるように取り組んでいく。解決過程を大切に、評価をしていく。</p> <p>② 計算問題を繰り返し解かせ、計算力をつける。</p> <p>③ 習熟度ごとに毎時間の授業において目標を設定する。</p> <p>④ 日々の授業で達成感や成就感を味わわせ、関心・意欲を高めていく。</p>
理科	<p>① 都の調査では、A・Bの合計が50.4%（都53.3%）と劣っている。知識・理解が43.7%（都47.8%）と差がある。また、Bでは、「取り出す力」が72.9%、「読み取る力」が42.8%であり、都の平均から5%以上の差がある。</p> <p>② 国の調査では、正答率が62%であり、都や国の平均よりも3~4%低い。また、知識・理解、科学的な思考・表現の項目がどちらも約3.5%低い。 以上の結果から、計算問題や基本的な用語などの基礎・基本を定着させながら、科学的な思考力を高めていく必要がある。</p>	<p>① 単元ごとに小テストを行い、知識を定着させる。副教材を活用し、授業内または家庭学習の課題として、随時復習を行う。</p> <p>② 日々の授業で、図や表からわかることを、丁寧に読み取ることをくり返す。また、結果をまとめた表やグラフから考察し、自分の考えを文章で表現させる。また、実験の後は、班や隣同士で話し合う時間を設け、結果からわかることを自分の言葉で説明できるようにしていく。</p>
英語	<p>① 都の調査では、A・Bの合計が50.2%（都55.8%）と劣っている。特に、「知識・理解」が都の平均よりも約5%下回っており、Aの項目の中で最も低い。Bでは、「読み取る力」が5.4%ほど低い一方で、「解決する力」に関しては都の平均を2.5%ほど上回っている。</p> <p>② 学びSD調査と都の調査を照らし合わせたところ、どちらも「外国語表現の能力」が平均よりも劣っていることが明らかになった。</p>	<p>① 「読み取る力」をつけるために、長い英文を読みとらせる時間を定期的に設ける。また、日頃の授業でもパラグラフリーディングなど読解の指導を継続的にやっていく。</p> <p>② 「外国語表現の能力」を向上させるために、継続的に「書くこと」についての指導を行う。また、授業内で発表したものを書く活動へもつなげていく。生徒の作品に関しては、教師がチェックを行い、各生徒にフィードバックを行う。</p>
体力	<p>① 「持久走」は、女子はほぼ区の平均を上回っているのに対し、男子は全学年すべて、区平均を10秒程度下回っている。女子に比べて、苦しい種目から逃げる傾向が感じられる。</p>	<p>① 持久走の単元以外でも日々の授業の中で走る機会を多く設定し、脚力・持久力を積極的に高めていく。また、サーキットトレーニングの内容を充実させたり、20Mシャトルランや1500M走の記録会を定期的に設定し生徒自身が体力の高まりを実感できるようにすることで、持久力を高める意欲の向上を図る。</p>
<p><その他の学力向上に向けた取り組み></p> <p>① 家庭学習の習慣化を図るため、家庭学習の導入として、毎日ドリル教材を配布し、翌日までの宿題としている。</p> <p>② 基礎学力と学習意欲の向上を目指し、自作教材での朝学習を実施している。</p> <p>③ 「三砂中支援の会」と連携した、外部講師による様々な「学力補習教室」等を実施している。 [平日の放課後] 英検補習教室、考查前学習教室 [土曜日の午前] 数学補習教室等</p>		